

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 5 年 7 月 1 日

### 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 該当するものを で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	一般財団法人 酒田 DMO	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 山形県酒田市	
所在地	山形県酒田市中町 1-4-10 6階	
設立時期	令和 4 年 5 月 26 日	
事業年度	4 月 1 日から 翌年 3 月 31 日まで の 1 年間	
職員数	5 人【常勤 5 人（正職員 2 人・出向等 3 人） 非常勤 0 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） 必ず記入すること	（氏名） 荒井 朋之 「選任」  （出身組織名） 酒田市観光戦略推進協議会	（株）JTB にて添乗員 7 年・営業 20 年（内、庄内酒田担当 15 年）計 27 年間勤務。在職中は地域交流・自治体・法人・学生・MICE・インアウトバウンドを担当。観光庁・復興庁・自治体事業、ラグビーワールドカップ釜石大会の交通輸送等にも携わり、自治体・企業・学校の連携等を担ってきた。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） 必ず記入すること	（氏名） 浅羽 由紀夫 「専従」  （出身組織名） （株）日本旅行リテイリング	日本旅行店舗にて団体手配及びカウンターセールスに従事。 関東圏内での勤務を中心に支店長として店舗運営及び、新店舗立ち上げを行なう。 カウンターでの個人旅行対応の経験より、内外の個人旅行需要に精通している。 総合旅行業務取扱管理者、クルーズコンサルタントの資格を有する。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） 必ず記入すること	（氏名） 佐藤 良広 「専従」  （出身組織名） 酒田市観光戦略推進協議会	元酒田市職員で企画財政など管理部門、商工観光部門に従事。本市の市町村合併にも携わる。 2011 年から 3 ヶ年、市観光物産課長として東日本大震災後の祭りの活性化、観光組織の育成、DC、産業観光などを推進。 2018 年からは庄内地方 2 市 3 町で構成する庄内開発協議会に勤務。広域重要事業要望、秋田・新潟と連携し日本海側の地域課題への対応を担当。 2021 年から酒田市観光戦略推進協議会において観光庁の事業を担当。 地域の主な事業者と強固な繋がりを持つ。

<p>各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） 各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること</p>	<p>（氏名） 小林 和也 「専従」</p> <p>（出身組織名） 酒田市 地域創生部 交流観光課</p>	<p>平成 8 年度に平田町役場に採用。 平成 17 年度の市町村合併を機に酒田市職員となる。 平成 26 年度より観光担当として地域ガイド養成や、鳥海山・飛鳥ジオパーク推進に従事。 地域と連携した体験コンテンツ造成や、地域の生産者と連携した酒田産品の商品開発や販路拡大を図る。</p>
<p>各部門（例：旅行商品の造成・販売）の責任者（専門人材）</p>	<p>（氏名） 佐藤 千尋 「専従」</p> <p>（出身組織名） 酒田市 地域創生部 交流観光課</p>	<p>平成 6 年度に酒田市役所に採用。 観光担当課には平成 26 年度から在籍し、通じて情報発信やプロモーションなどに従事。 行政組織との連絡調整等を行うほか、地元事業者との連携を図る。</p>
<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>【酒田市】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域創生部 交流観光課（観光振興全般）</li> <li>・ 地域創生部 商工港湾課（港湾振興、商店街振興等、企業連携）</li> <li>八幡、松山、平田 各総合支所 地域振興係（観光振興全般）</li> <li>農林水産部、教育委員会</li> </ul> <p>【山形県】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光文化スポーツ部</li> <li>・ 山形県庄内総合支庁 地域産業経済課観光振興室（観光振興全般）</li> </ul>	
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>【観光振興・マーケティング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人 酒田観光物産協会：（お土産販売・開発）</li> <li>・ 酒田商工会議所</li> <li>・ 酒田市産業振興まちづくりセンター：（企業支援）</li> <li>・ 株式会社 平田牧場：（観光施設：相馬樓）</li> <li>・ 酒田小鈴 合同会社：（観光施設：酒田舞娘）</li> <li>・ 株式会社 環境開発：（酒田地区土地・不動産開発）</li> <li>・ 有限会社 チアーズ：（観光施設：山王くらぶ）</li> <li>・ ひらた悠々の杜 株式会社：（温泉施設）</li> <li>・ 株式会社 プレストージ・インターナショナル ：（地域企業：V1 バレーボールチーム アランマーレ山形 親会社）</li> <li>・ 庄内観光コンベンション協会</li> <li>・ 東北公益文科大学</li> <li>・ 一般社団法人 鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会</li> <li>・ 一般社団法人 北前船交流拡大機構</li> </ul> <p>【宿泊】</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田市旅館業組合</li> <li>・酒田市ホテル振興協議会</li> </ul> <p>【二次交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山観光バス 株式会社：(バス)</li> <li>・庄内交通 株式会社：(バス)</li> <li>・山形県ハイヤー協会 酒田支部：(タクシー)</li> </ul> <p>【着地型商品開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山観光ツアー</li> <li>・株式会社 菅原鮮魚 スマイル・ツアーズ</li> <li>・一般社団法人 元気インターナショナル</li> </ul> <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社 山形アドビューロ：(広告代理店)</li> <li>・株式会社 山形新聞社 酒田支社</li> <li>・株式会社 荘内日報社</li> <li>・株式会社 読売新聞東北統括本部</li> <li>・株式会社 山形テレビ庄内支社</li> <li>・株式会社 さくらんぼテレビジョン庄内支社</li> <li>・NHK 酒田報道室</li> <li>・株式会社 テレビユー山形庄内センター</li> <li>・有限会社 プランニングゆうむ：(地元誌)</li> </ul>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>【該当する登録要件】</p> <p>観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置</p> <p>【概要】</p> <p>酒田 DMO が主導し、「酒田観光まちづくり会議」(意見聴収の場)等での観光事業者等による意見等をベースに、「酒田観光戦略会議」(合意形成の場)において合意形成を図り、地域の観光事業者、宿泊事業者、交通事業者、商工会、行政等、業種規模を問わず連携できる仕組みをつくり、共業・連携するための賛助体制の組織の形成を図っている。</p> <p>観光地域づくり法人が中核となり、事業催行のため賛助団体の代表者(意思決定者)や、行政・教育機関等、多様性を尊重した事業構築を行うための勉強会及び情報共有会議等を実施。</p> <p>稼ぐ組織として行政や関係団体と合意形成した収益事業の実施。</p> <p>経済の循環を基本とした信頼関係を築き、持続可能な運営体制を構築。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>地域企業・地縁団体等と連携した活動については、地元メディア・媒体を通じ紹介をおこない、酒田 DMO の認知度の向上、取組内容の周知を図っている。また、地域住民・関係事業者等に向けた勉強会等を行い、地域と一体となった観光地づくりに対し意識啓発と参画促進に努めている。</p> <p>(令和 4・5 年度における主な実施事業例を記載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ATTA 台中国際旅行展及び、台中の高等学校修学旅行酒田誘致活動において、酒田舞娘を全面に押し出した酒田観光展示プロモーションを実施。</li> <li>地元誌「荘内日報」等を通じ活動内容を地域住民に紹介。</li> </ul>

	<p>実施日：令和 4 年 10 月 21 日～24 日。(令和 5 年も 10 月実施確定済み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田市東部中学校と ANA、JR 及び地元関連事業者と連携し、「地域課題の解決に向けた取組」としてグループワークを実施。 実施日：令和 4 年 7 月 20 日 「地域の宝の情報発信の仕組み作り」における講演会を実施。</li> <li>実施日：令和 4 年 9 月 1・2 日 フィールドワーク&amp;ワークショップ</li> <li>実施日：令和 4 年 10 月 5・21 日 松山能体験</li> <li>実施日：令和 5 年 4 月 25 日 ふるさと講演会</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれる・楽しむ・好きになる、酒田まるごとアドベンチャー体験創出事業」にて、観光事業者向け学習会を開催。 実施日：令和 4 年 11 月 19 日</li> <li>・「地域課題解決の取組における地域高校生・大学生との連携」として、日和山台町エリアの回遊性向上によるナイトタイムエコノミー活性化を目的としたライトアップ事業を実施。 実施日：令和 4 年 10 月 19 日～11 月 7 日ハロウィンイベントとして実施。 12 月 1 日～26 日クリスマスイベントとして 2 回実施。 (令和 5 年も同期にて実施確定済み)</li> </ul>
--	---

法人のこれまでの活動実績

酒田 DMO が主導し、地域観光事業者、行政等と連携の上、国内ターゲットエリアとなる仙台圏を中心とした隣接県と首都圏、海外においては最重要マーケットである台湾市場への酒田観光プロモーション・情報発信活動を継続的に行い、誘客・認知度の上を図っている。

また旅行消費額の拡大に向けては、地域事業者との連携による着地型商品の造成販売、地産商品販売などの取組みを実施している。

【主な活動の概要】

事業	実施概要
情報発信・プロモーション	<p>【インバウンド向け情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和 4 年度、海外第 1 ターゲットである台湾を始めとする海外市場向け酒田観光プロモーション強化事業。</li> </ul> <p>旅行展示会（第 17 回 ATTA 台中国際旅行展）においてインバウンド向け酒田市観光プロモーション。 実施日：令和 4 年 10 月 21 日～24 日 台中市内の高等学校 3 校に酒田への修学旅行誘致活動。 富裕層向け台中スーパーマーケットにおける酒田舞娘帯同による観光プロモーション。 (台湾への誘客プロモーションについては令和 4 年よりの継続取組として、令和 5 年 10 月 13 日～16 日に台中にて実施)</p> <p>美酒美食ツーリズム推進事業（酒田の食の PR） 海外（台湾）に向け、観光関連事業者、食材の生産者、酒蔵、飲食店等と連携し、酒田の美酒美食の輸出と情報発信、歴史文化などを組み合わせた観光プログラムの形成、知名度の向上にを図る。 台湾のバイヤーに対する酒田産食材のプロモーション活</p>

		<p>動の実施。      実施日：令和 5 年 1 月 13 日～1 月 17 日      クルーズ船酒田入港に併せて、乗船客向けに地元名品による「やまがたの逸品展」展示販売会を開催。      （令和 5 年 4 月入港に合わせ 5 回実施、11 月入港に合わせて 2 回実施予定）</p> <p>【国内マーケット向け情報発信】</p> <p>○ 令和 4 年度 国内ターゲット市場向け観光プロモーション強化への取組み。（令和 5 年においても継続実施中）</p> <p>東京・仙台への AGT 訪問によるクルーズ船受入れ推進、酒田の花火等の酒田観光プロモーション活動。      実施日：令和 4 年 6 月～12 月において計 9 回実施      仙台駅内びゅうプラザ及び隣接県における、酒田全国二尺玉花火競技大会プロモーション活動。      実施日：令和 5 年 6 月 24 日～6 月 25 日（仙台駅）など      各種メディア、雑誌等での観光プロモーション。      国内ターゲット層への情報発信として、主要マーケットである仙台圏を含む隣接市などへの定期的な情報発信を実施。      令和 4 年度実施(主な情報提供・共有先)      メディア：さくらんぼ TV      雑誌媒体：仙台情報誌「りらく」庄内情報誌「Bloom」      酒田舞娘による酒田観光プロモーション      酒田観光の主要素材である酒田舞娘による仙台を始めとする隣接県酒田観光プロモーションの実施。      SNS 活用による情報発信。      Instagram・Facebook における酒田 DMO アカウントよりの情報発信。</p>	
	<p>受入環境の整備</p>	<p>令和 4 年度 オンラインで物品を販売する E コマースの取組事業。</p> <p>○ 観光商品販売ポータルサイトの導入。      市内の事業者を募り、インターネットによる地域商品の販売を行う地域商社機能の促進を図った。計 14 事業者が参加。</p> <p>令和 5 年度 酒田 DMO オリジナル着地型観光コンテンツの整備販売事業。      滞在・体験型プログラムを盛り込んだ今までにない高付加価値商品の造成販売。現在 3 商品造成販売。      酒田 DMO ポータルサイトにて販売実施中。</p>	

	<p>観光資源の磨き上げ</p>	<p>令和 4 年度実施主な酒田観光資源磨き上げ事業</p> <p>「日和山ライトアップ・まち歩き観光支援事業」による、日和山&amp;台町エリア ナイトタイムエコノミー活性化イベントの実施。</p> <p>台町エリアに点在する歴史的文化 4 施設のライトアップに合わせ、周辺飲食店との連携による新しい夜間景観と賑わいを創出し、観光消費の増加を目的として実施。SNS 活用や地元誌への広告媒体掲載等による情報発信。</p> <p>10 月 19 日～11 月 07 日：ハロウィン期間にて実施 12 月 01 日～12 月 26 日：クリスマス期間にて実施 令和 5 年度も継続実施予定。</p> <p>「ナイトミュージアム事業」(文化庁補助事業) 地域の飲食店・宿泊事業者と連携し、本間美術館の魅力を活用した新たな旅行商品の造成・販売を行い、夜間帯の賑わい創出・活性化を図るため実施。</p> <p>実施日：令和 4 年 12 月 10 日～12 月 11 日 観光庁の補助事業を活用したアドベンチャーツーリズム事業「酒田アドベンチャー体験ツアー」の造成。 ジオパークにも認定されている鳥海山麓での雪上体験や里山体験、酒田の湊町文化の体験など見るだけでなく、体験プログラムを多く組み込んだ新たな酒田観光コンテンツ商品の造成。令和 5 年度より酒田 DM0 ポータルサイトにてオリジナル観光コンテンツとして販売。 湊・酒田の美酒美食ツーリズム推進事業として、全日空 CA (ANA SHONAI BULE AMBASSADOR) 市内事業者とのコラボレーションによるオリジナル純米吟醸酒販売。 市内ホテルにて「湊町酒田の酒と食を愉しむ夕べ」実施</p>
<p><b>【定量的な評価】</b></p> <p>酒田市 入込観光客数 (酒田市独自調査数値を元に酒田 DM0 にて算出)</p> <p>令和 01 年度 2,730.8 (千人) 令和 02 年度 1,762.6 (千人) 令和 03 年度 1,837.8 (千人) 令和 04 年度 2,173.7 (千人)</p> <p>酒田市 旅行消費額 (酒田市独自調査数値を元に酒田 DM0 にて算出)</p> <p>令和 01 年度 18,096 (百万円) 令和 02 年度 8,860 (百万円) 令和 03 年度 12,515 (百万円) 令和 04 年度 19,453 (百万円)</p> <p>本市における入込観光客数は、平成 18 年度の 3,355 千人をピークに長期的に減少傾向が続いており、新型コロナウイルス感染拡大に伴い令和 2 年においては前年比 4 割減となったが、行政の観光支援施策等の後押しもあり令和 3 年度より回復傾向が見られる。</p> <p>令和 3 年よりの観光入込客数、旅行消費額の上昇は、行政等の観光支援施策</p>		

等による下支えさえによるものと想定されるため、今後は観光入込者数、消費額の維持上昇を図る更なる取組が必要となるため、実施事業のブラッシュアップを図り継続して取組むものとする。

**実施体制**  
地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

**【実施体制の概要】**

一般財団法人酒田 DMO は資本金の三分の二を酒田市が出資する第三セクター方式の法人だが、行政職員だけではなく民間企業からの出向を受け入れることで企業感覚を重視した組織として活動を行う。

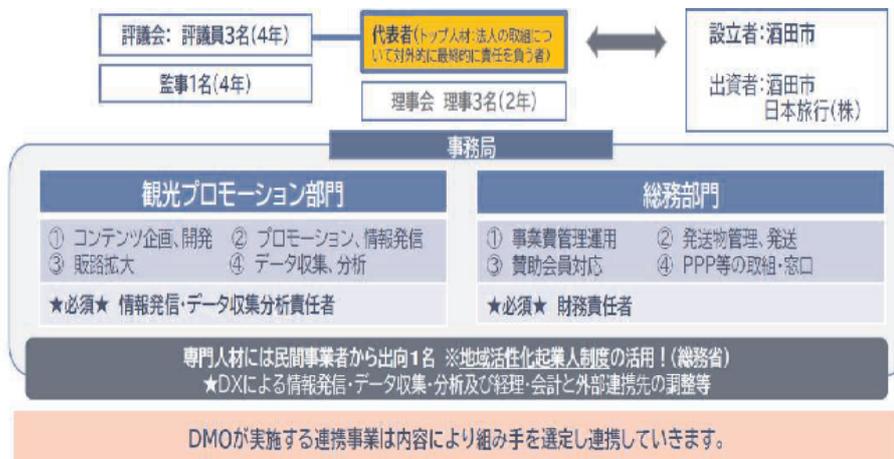
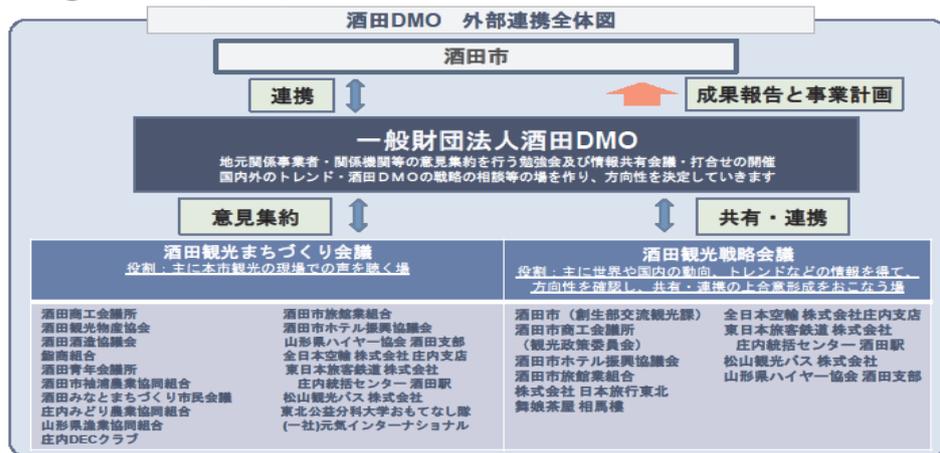
実施活動においては、観光関連データの分析に基づく観光ニーズの把握や観光資源の磨き上げ、地域内の観光関連事業者及び自治体・地団体等の連携による受入環境整備などをスピード感を持って行い、観光誘客を促進し、地域の観光産業を活性化させることを目的として活動を行っていく。

**【実施体制図】**

**1. 組織の概要**

(2) 組織体制と設立スケジュール

②観光推進体制と役割分担



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】





【区域設定の考え方】

江戸時代に河村瑞賢翁による西廻り航路が整備されると、その起点港であった酒田は北前船交易により、京都・大阪の上方文化を独自発展させ湊町として飛躍的に栄えた。市内には当時の面影を色濃く残す文化施設・観光資源が10の構成文化財として平成29年に日本遺産に認定された。また山形県唯一の有人離島「飛島」は島全域が鳥海国定公園に指定されている。さらに、鳥海山麓にある「玉簾の滝」等を含めた豊かな自然資源は平成28年に日本ジオパークに認定されている。北前文化の情緒あふれる日和山周辺を拠点とした街歩きによる歴史や文化の成り立ち、自然豊かな鳥海山麓を始めとした里山エリアは山菜採りやトレッキングなど、里山ならではのアクティビティを活かしたアドベンチャーツーリズムに適している。

大地の成り立ちから生まれる景観や生態系、その上に育まれた歴史・文化を一体的に学び・楽しむ「現酒田市全域（平成17年に旧酒田市・飽海郡八幡町・松山町・平田町と新設合併）」を設定区域とすることが適切と考え設定する。

## 【観光客の実態等】

観光入込客数は、平成 20 年に本市が撮影ロケ地となり日本アカデミー賞を受賞した映画「おくりびと」の公開や、平成 29 年度の日本遺産登録やディステーションキャンペーン実施が追い風となり前年より増加となった年もあったが、平成 21 年度の 3,210 千人をピークに平成 24 年度以降は 3,000 千人を割り込むなど観光入込客数の長期的な減少傾向が続いている。

新型コロナ感染拡大に伴い令和 02 年度においては前年比 64%と大幅な減少となり、政府の全国旅行支援施策等により一定の回復傾向が見られるものの根本的な課題改善には至っていない。

酒田市独自の観光調査研究報告等によると入込観光客の約 6 割が県内からの来訪となっており、宿泊施設や二次交通の脆弱さという要素も相まってマイカー利用・日帰りでの来訪が多く観光消費額が低いため、県外から宿泊を兼ねた観光客の誘致が課題となっている。

北前船が伝えた上方文化を独自に発展させた歴史的文化施設やグルメ、飛島・鳥海山麓の自然など魅力的な観光資源を持ち合わせているが、観光地酒田としての魅力を十分に活用しきれておらず官民一体となった取り組みが必要となっている。

一方で来訪者の満足度においては毎年高い水準での評価となっているが、三世代家族や若年層への認知度が低いという課題も有する。観光地としての魅力の磨き上げを図ると共に情報発信の強化を図り、認知度の向上・誘客促進をおこない消費額拡大に繋げていく必要がある。

観光入込客数（酒田市独自調査数値を元に酒田 DMO にて算出）

令和 01 年度 2,730.8（千人）  
 令和 02 年度 1,762.6（千人）  
 令和 03 年度 1,837.8（千人）  
 令和 04 年度 2,173.7（千人）

延べ宿泊者数（酒田市独自調査数値を元に酒田 DMO にて算出）

令和 01 年度 242（千人）  
 令和 02 年度 176（千人）  
 令和 03 年度 204（千人）  
 令和 04 年度 217（千人）

旅行消費額（酒田市独自調査数値を元に酒田 DMO にて算出）

昨年記載金額との相違について。

昨年は山形県観光調査市町村別観光者数による酒田市データを元に、山形県全体の旅行消費額を酒田市に適用し算出を行っていたため。

令和 01 年度 18,096（百万円）  
 令和 02 年度 8,860（百万円）  
 令和 03 年度 12,515（百万円）  
 令和 04 年度 19,453（百万円）

## 【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

## 【観光施設】

- ・本間美術館・本間家旧本邸・山居倉庫・庄内米歴史資料館・舞娘茶屋相馬樓・山王くらぶ・旧鑑屋・旧阿部家・阿部記念館・酒田市立資料館・松山文化伝承館・松山歴史公園・海向寺・日枝神社・浄福寺唐門・日和山公園・日和山小幡楼・鳥海高原家族旅行村・眺海の森・鳥海イヌワシみらい館・總光寺

## 【商業施設】

・酒田夢の倶楽・さかた鮮魚市場・酒田市みなと市場・SAKATANTO・オランダせんべい FACTORY

## 【自然】

・飛島・鳥海山麓・玉簾の滝・不動の滝・十二滝・庄内砂丘

## 【文化】

・土門拳記念館・酒田市美術館

## 【スポーツ・イベント等】

《1月》

・飛島神社裸参り・酒田日本海寒鱈まつり・まつやま大寒能・酒の酒田の酒まつり

《2月》

・黒森歌舞伎

《3月》

・酒田雛街道

《4月》

・酒田日和山桜まつり・舞鶴公園桜まつり

《5月》

・酒田まつり・酒の酒田の酒まつり～春酔の宴～・玉簾の滝ライトアップ・中山神社祭典武者行列

《6月》

・鳥海山湯ノ台口山開き・みなと酒田トライアスロンおしんレース・いか釣り船団出航式・松山城  
薪能

《7月》

・酒田港クルーズ

《8月》

・酒田の花火全国二尺玉花火競技大会・酒田湊甚句流し・玉簾の滝ライトアップ・新山延年舞・松  
山能

《9月》

・鳥海高原まつり・まつやま大手門くらふとフェア

《10月》

・つや姫マラソン・日和山クラフトアートフェア・さかた大繁盛ハロウィンまつり

観光資源の活用においては、酒田が持つ北前船がもたらした上方文化を独自に発展させ日本遺産にも登録されている歴史的文化や施設・祭り、食文化、日本ジオパークに認定された飛島・鳥海山麓の自然・里山体験など、酒田ならではのオリジナルコンテンツを組んだ商品造成と多様な観光プロモーションを、国内における主要ターゲットである仙台・隣県・首都圏と、入国規制緩和により入込旅行者数の拡大が想定される台湾をはじめとする東南アジア圏を中心とした訪日観光者をメインターゲットとして実施する。

## 【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

・市中心エリア	16 施設	( 1,176 部屋	1,542 名収容)
・八幡エリア	1 施設	( 22 部屋	56 名収容)
・松山エリア	2 施設	( 29 部屋	75 名収容)
・飛島エリア	9 施設	( 72 部屋	325 名収容)

## 【利便性：区域までの交通、域内交通】

## 区域までの交通（大都市圏～酒田）

## 空路

東京/羽田空港 から 庄内空港 まで1日5便（6月1日から9月30日のみ4便）就航。  
所要時間は1時間。  
庄内空港から酒田市内までは発着便接続にて連絡バス運行。市内までは約40分。

## 鉄道

東京（上越新幹線）から新潟経由（羽越本線）酒田まで約4時間  
東京（山形新幹線）から新庄経由（陸羽西線/当面は代行バス運行）酒田まで約4時間30分  
大阪（東海道/上越新幹線）から東京/新潟経由（羽越本線）酒田まで約7時間

## 高速バス

東京（東京/新宿 1日1往復・渋谷/池袋 週末運行（木・金・土・日曜日）から 夜行便運行  
にて約7時間  
仙台 から 約3時間30分（令和5年7月時点 1日平日8往復・土日祝9往復運行）

## 道路

東京 から（東北自動車道経由）村田 JCT（山形自動車道経由）酒田 ICまで 約6時間30分  
東京 から（上越自動車道経由）長岡 JCT（北陸/日本海東北道経由）酒田 ICまで 約7時間  
仙台 から（東北自動車道経由）村田 JCT（山形自動車道経由）酒田 ICまで 約2時間30分

## 域内交通

## 市内循環 るるんバス

市内循環 A線～D線 4系統・酒田駅大学線・古湊アイアイひらた線の合計6系統が運行  
【毎日運行】市内循環 A線・B線・酒田駅大学線 24本運行/日  
【平日運行】市内循環 C線・D線 8本運行/日  
【週3日（月・水・金曜日）運行】古湊アイアイひらた線 4本運行/日

## 市内予約制乗合（デマンド）タクシー

【平日運行】 土・日・祝・年末年始は運休 2～4本運行/日  
【対象地区・地域】

- ・新堀 ・広野 ・中平田 ・東平田 ・北平田 ・西荒瀬 ・南遊佐 ・本楯 ・上田
- ・浜中 ・黒森 ・十坂 各地区
- ・八幡 ・平田 ・松山 各地域

## 【外国人観光客への対応】

市が英語版の総合観光ウェブサイトを開設しているのと共に、Facebookにて定期的に英語での情報発信を実施している。

酒田の主たる観光情報発信拠点【酒田駅前観光案内所（ミライニ内）】では、英語によるご案内と併せて、タブレットに通訳対応アプリを導入し活用をおこなっている。観光案内パンフレットにおいては5か国語（英語・中国語・韓国語・タイ語・ロシア語）で作成をおこなっており、日本政府観光局（JNTO）の外国人観光案内所認定制度においてはカテゴリー1に認定されている。

英語ガイドにおいては、北庄内地域通訳案内士登録者数が延べ 14 名の他、事前予約制有料外国語ガイド VIPS (Volunteer Interpreting Partner of Sakata) も対応をおこなっている。  
また平成 30 年度に、多言語多対応観光サイン (市内 23 ヶ所) の整備をおこなった。

### 3 . 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	酒田市からの調査報告を元に酒田 DMO が分析を実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	酒田市からの調査報告を参照。
来訪者満足度	来訪者の満足 (不満足) に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	酒田市からの業務委託による調査研究報告を参照。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	酒田市からの業務委託による調査研究報告を参照。
WEBサイトのアクセス状況  現在 SNS への情報発信強化を行っている為、SNS フォロワー数目標設定として記載します。	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	酒田 DMO にて独自に管理・分析を実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	酒田市からの業務委託による調査研究報告を参照。
地域商品の造成数・販売実績	安定的な運営資金の確保をおこなうため。	酒田 DMO にて独自に管理・分析を実施。

### 4 . 戦略

#### ( 1 ) 地域における観光を取り巻く背景

酒田市には「食」「景観」「史跡」等の観光資源は豊富にあるものの、観光誘客に繋がる情報発信の不足や受入体制の脆弱さより、庄内エリアでも隣接温泉地等への通り道としての認識に留まってしまっている。  
こうした地域の課題と観光資源を有効活用するために、平成 27 年に酒田市中長期観光戦略を策定し、酒田 DMO を中心として既存の観光資源を活用した観光地域づくりを図り、新たな雇用の創出や担い手不足の解消、交流人口の増加に繋げることとしている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本遺産認定：北前船寄港地・船主集落 (10 の構成文化財)</li> <li>・酒田舞娘 (さかたまいこ)</li> <li>・国指定史跡 山居倉庫 (観光及び物産としての市内拠点、ピーク時年間 80 万人集客)</li> <li>・鳥海山・飛島ジオパーク (美しい自然景観)</li> <li>・酒田港 (県内唯一の外国船クルーズ受入れ港)</li> <li>・多彩な祭りイベント (酒田まつり・全国唯一酒田の花火全国二尺玉花火競技大会・酒まつりなど)</li> <li>・美酒 (市内に 7 つの蔵元)</li> <li>・美食 (100 年フード 酒田のラーメン、海鮮、果実、ブランド豚など)</li> </ul>	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田に対する知名度の低さ</li> <li>・宿泊施設数の不足</li> <li>・二次交通手段の不足</li> <li>・既存観光施設と観光客のニーズの乖離</li> <li>・冬季の観光体制が脆弱</li> <li>・観光誘客・推進体制が脆弱</li> <li>・情報発信機能が脆弱</li> <li>・観光における関係機関の連携不足</li> <li>・主要ターゲット (三世代家族・若年層) への観光誘客戦略が不足による来訪者数の少なさ。</li> <li>・全国的な名物、名産品が少ない</li> </ul>
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田港へのクルーズ船の入港 (2023 年度入港数 6 回)</li> <li>・新潟駅改良工事による JR アクセスの向上。</li> <li>・庄内空港 5 便化 (一部時期は 4 便運航)</li> <li>・ミシュラングリーンガイドによる市内施設の評価点</li> <li>・ポストコロナによる観光消費需要の拡大</li> <li>・ふるさと納税 35 億円 約 200(千)件の応募</li> </ul>	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本格的な人口減少と高齢化社会の到来</li> <li>・事業者の高齢化と継承者不足</li> <li>・訪日外国観光客取込みに対する自治体間の競争の激化</li> <li>・クルーズ船寄港に対する自治体間の競争の激化</li> <li>・鉄道・高速道路網の未発達による移動時間、距離での不利</li> <li>・観光アクセスの中心がマイカーとなるが、若者層の免許取得率の低下</li> </ul>

(3) 酒田市の観光に関する SWOT 分析

酒田市の観光を推進していくためには、この地域の「強み」を活かし、観光市場の機会を勝ち取ることが最優先される手法です。また、地域の「弱み」を克服することも重要な視点ですが、単に弱みを克服するだけでなく、「弱み」を「強み」に転換するといった逆転の発想も必要です。

地域	強み (Strength)	弱み (Weakness)
	・地域の観光資源の強みは何か ・他に考えられる強みは何か	・地域の弱みは何か ・他に考えられる弱みは何か
	① 北前船による歴史、文化、交易	① 市内観光資源や施設の認知度が低い
	② おいしい食べ物	② 名物・名産品が少ない
	③ クルーズ船の寄港	③ 既存観光施設と観光客ニーズの乖離
	④ 美しい自然景観	④ 宿泊施設の不足 (客室数)
	⑤ 多様な祭り・イベント	⑤ 市内全域の二次交通が不足
⑥ 公益の精神	⑥ 市民が地域の魅力に気づいていない	
		⑦ 観光推進体制が脆弱
市場環境	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
	・市場変化の機会はないか ・他に考えられる機会はないか	・競争相手の反撃の脅威は何か ・類似参入の脅威はあるか
	① 観光客の個人化・少人数化	① 本格的な人口減少化社会の到来
	② 観光ニーズの多様化・成熟化	② 国内観光需要の地域間競争の激化
	③ 訪日外国人旅行者の急増	③ 訪日外国人観光客誘致の全国的取り組み
	④ 外航クルーズ船の増加	④ 外航クルーズ船誘致に取り組む地域の増加
	⑤ 鳥海山・飛島ジオパーク認定に向けた取り組み	⑤ 着地型観光に取り組む地域の増加
⑥ ミシュラングリーンガイドジャパンでの評価		

## (3) ターゲット

## 第1ターゲット層

- ・近隣県（特に仙台圏）、首都圏在住の「三世代家族」

## 選定の理由

毎年実施している「酒田市観光に関する調査研究」において、現在酒田市への観光入込客層においてメインとなる高年齢層への観光認知度は高く、満足度・再訪希望率も高い数値となっているが、半面三世代層が著しく少ないというデータが出ている。

日本遺産に認定された「北前船寄港地・船主集落」の文化財のが点在する市街地エリアと、日本ジオパークに認定された「鳥海山・飛鳥」エリアを併せ持ち、幅広い世代に提供できる観光素材を有する酒田の強みを鑑み、今後の入込観光客数・観光消費額の拡大及びリピーター醸成の観点において、「三世代家族」の取り込みが必須課題であると考えため。

## 取組方針

酒田が持ち合わせる自然・里山体験と、北前船がもたらした歴史体験を組み合わせた滞在・体験型「酒田版 ジオパーク・日本遺産アドベンチャーツーリズム」を主力商品として、三世代が自然や歴史文化と一緒に体験できる仕組みと場を創るなど、体験・滞在型観光コンテンツとして「酒田ならではの」旅行商品の造成販売をおこない、滞在時間・旅行消費額の拡大を図っていく。

併せて SNS・媒体など多様なアプローチ方法により継続的な情報発信をおこない、酒田市の課題である観光地としての認知度の向上を図り、三世代家族への浸透・拡大に取り組んでいく。

## 第2ターゲット層

- ・仙台圏を中心とした隣県及び隣市在住の「若年層（特に20代から30代の女性）」

## 選定の理由

酒田 DMO が掲げるコンセプト「酒田ファンが酒田を創る」を実施達成し観光入込客数の拡大を図るためには、将来的に観光入込客層の中心となる「若年層（特に20代から30代の女性）」への観光地としての酒田の認知度を高める必要がある。観光を基盤として自走できる仕組みの土台を担う世代への認知度向上、観光入込実数拡大のためにも継続的なアプローチが必要と考えるため。

## 取組方針

従前の観光プロモーションスタイルに拘らず、体験・食・自然・イベントなどの体験型観光コンテンツの磨き上げを図ると共に、当該世代の主要情報収集アイテムである SNS を始め、メディア・媒体など多様な情報発信ツールを活用し、当該世代への観光地酒田としての認知度の向上・誘客促進に取り組み観光入込客層の拡大に取り組んでいく。

## 台湾をメインターゲットとした東南アジアよりの訪日外国人観光客

## 選定の理由

山形県観光者数調査におけるの外国人旅行者県内受入実績調査結果データに基づき、県の訪日観光客及び、同データにおける庄内地区への受入実績割合においても盤石なりピーターであり、酒田

における訪日観光者数の半数近くを占める台湾に集中的な観光プロモーションを行い、台湾市場における酒田の認知度の更なる向上を図るため。

当面は台湾を主軸とした訪日観光プロモーションを実施するが、入国規制緩和による訪日旅行者数拡大が見込める香港・中国・韓国を中心とする東南アジア圏も視野に入れ取り組むものとする。

#### 取組方針

令和 4 年 10 月実施の ATTA 台中国際旅行展における酒田舞娘を全面に押し出した酒田観光プロモーションを令和 5 年も継続しての実施（令和 5 年 10 月 13 日～16 日）を行い、併せて台中学校訪問を実施し、酒田への訪日修学旅行の受入セールスを行うなど、台湾を始めとする東南アジア市場においての酒田観光プロモーションを継続実施し、更なる取組強化を図る。

また訪日観光客受け入れに向け、酒田が持つ鳥海山麓トレッキングや里山体験、北前船がもたらした歴史文化体験など、酒田ならではの体験型コンテンツを盛り込んだ高付加価値着地型旅行商品を造成し、酒田 DMO ポータルサイト経由等を用いての商品提供をおこなっていく。

（令和 5 年 6 月時 3 商品提供済）

### （４）観光地域づくりのコンセプト

コンセプト	「酒田ファンが 酒田を創る」
コンセプトの考え方	<p>北前船交易によって京都・大阪よりもたらされた上方文化を独自に発展させた酒田の歴史や文化は日本遺産「北前船寄港地・船主集落」にも認定され、酒田の観光を考える際には欠かせない強みである。しかし観光地としては全国的な認知度が低いため、未来の酒田の観光振興や誘客促進を図るためには先ず「観光地としての認知度の低さからの脱却」が不可欠である。</p> <p>肥沃な土地と海に育まれた農産物や海産物など食材の宝庫、酒田舞娘を始めとした古くから伝承されている歴史文化、鳥海山や飛鳥等の魅力あふれる豊かな自然環境といった観光資源を存分に活かし、多くの人に酒田のタッチポイントをつくることで酒田の魅力に触れて・楽しんでいただき、まずは「酒田ファン」になっていただく。そして歴史文化や自然環境の維持・保全に関心を持ってもらい、未来の酒田の観光振興の担い手に繋げていく。</p> <p>酒田 DMO はそのために情報を集約し、未来の酒田を創るシステム・モデルを市内観光関連団体、観光事業者と連携しながら構築を図り、酒田の「産・学・官」全ての情報の集約の場「酒田プラットフォーム」を確立することで「地域のみんな」が未来の酒田を創る、という姿を活動目標とする。</p>

## 5 . 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 頻度が分かるよう記入すること。	<p>観光プラットフォームの再構築として観光関連におけるデータ分析を元に、多様な関係者と現状を共有し、課題解決に向けての場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「酒田観光まちづくり会議」の実施。(意見聴の場として年1回設定)</li> <li>・「酒田観光戦略勉強会」の実施(合意形成の場として年1回設定)</li> </ul> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関連事業者に対し、酒田 DMO の取組状況と今後の戦略・展開を説明の場を設け情報の共有を図ることを目的として実施。</li> <li>・事業内容に応じ、個々の事業者と直接的な連携を図り、関係者の育成を含め裾野の拡大に努めている。</li> </ul>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p>次世代に向けた観光人材の育成、地域事業者と連携したコンテンツ創りなど地域が一体をなした誘客サービスの向上に取組んでいく。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の中・高・大学と連携し、未来の観光人材の育成と地域課題の解決に向けたコミュニケーションの場を設け、勉強会やワーキング活動を実施していく。</li> <li>・滞在・体験型コンテンツを組んだ今までにはない高付加価値商品の造成販売を行い、新たな顧客層獲得に向けた取組みを実施していく。</li> <li>・酒田市が抱える課題解決に資する国などの補助事業への積極的な取組みを行うことにより、新たな観光客受入環境の整備・構築を推進していく。</li> <li>・酒田市で実施している国内観光入込客向けアンケート及び、酒田 DMO による訪日外国旅行者向けアンケート(実施準備中)回答より、観光課題の洗い出し整理を行い、課題解決への取組みを実施していく。(訪日外国人旅行者向けアンケートは令和5年度中の実施に向け準備中)</li> <li>・訪日外国人旅行者の受入環境整備として、酒田 DMO にて設置したポータルサイトの多言語化の推進を図る。(令和6年度の稼働開始を目標として計画準備中)</li> </ul>
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<p>酒田 DMO が中心となり、一元的な情報発信をおこなうことにより観光情報における発信力を高めていく。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒田 DMO と行政・団体・地域企業と連携した事業のみならず、地域観光事業者などによる取組みなどを一括したメディア・SNS プロモーションとして観光情報発信を図る。</li> <li>・酒田 DMO にて構築したポータルサイトのブラッシュアップを図り、体験メニューの予約決済機能の他、酒田及び庄内特産品の購入、二次交通・宿泊サイトとのリンクなど多様化を図り、一元的な観光情報発信機能の構築を図る。(令和6年以降の早期改修として計画準備中)</li> <li>・酒田 DMO ポータルサイト機能の多言語化による訪日外国人向けの観光情報発信を行う。(令和6年度の稼働開始を目標として計画準備中)</li> </ul>

各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

## 6. KPI (実績・目標)

戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

### (1) 必須KPI

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
旅行消費額 (百万円)	目標	(-)	(-)	17.466	22,000	19,400	20,000
	実績	(-)	(-)	(-)	(480)	(529)	(579)
延べ宿泊者数 (千人)	目標	(-)	(-)	144	230	215	222
	実績	(-)	(-)	(-)	(6.8)	(7.5)	(8.2)
来訪者満足度 (%)	目標	(-)	(-)	93.8	96.5	96.5	96.5
	実績	(-)	(-)	(-)	(96.9)	(97.0)	(97.0)
リピーター率 (%)	目標	(-)	(-)	62.0	63.0	64.0	65.0
	実績	(-)	(-)	(-)	(14.4)	(17.4)	(20.4)

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

### 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

#### 【訪日外国人旅行者における各基準・目標値の設定について】

KPIにおける訪日外国人旅行者の目標設定数値については、現状コロナ禍等によりデータ収集方が未設定となっているため、本申請書類においては、観光庁・山形県・酒田市による作成報告書掲載各データを元に算出し適用数値とすることとする。

また算出基準とする調査データにおいては、令和2年から4年の調査数値はコロナ禍での特殊数値のため、令和1年度の調査数値を用い算出することとする。

現在令和5年度中の実施として、酒田DMOにてQRコードによる回答方式を用い、訪日外国人旅行者に対しアンケート調査を実施しデータ収集を行い、酒田DMO独自にて数値管理・分析を行う体制準備を進めております。

## 【設定にあたっての経緯】

酒田市における取組課題である観光入込客数、旅行消費額拡大等への取組みと併せ、DMOが自走できる運用資金拡大に向けた取組みに重点を置き目標の設定を行った。

KPI 設定各項目についての目標数値検討プロセス等については各項目毎に記載する。

## 【設定にあたっての考え方】

旅行消費額

## 【実績値】

酒田市独自調査による酒田市内施設における宿泊者数統計と、市内における観光消費単価調査数値を元に酒田 DMO が算出し適用する。

入込観光客総数においては市内宿泊者数統計数値を元に、酒田市への入込観光客数の 8 割が日帰りもしくは酒田市内に宿泊していない現状にあるとの酒田市の調査データを元に、市内未宿泊者総数を宿泊者数の 4 倍とし総入込観光客数とする。

市内消費単価においては、酒田市独自の消費額調査において宿泊・日帰り毎の消費額調査での消費金額が算出されているため、それぞれの数値を元に算出し合計金額を酒田市における旅行総消費額とする。

## 【目標値について】

酒田市独自における観光動向調査によると、酒田市内宿泊者及び未宿泊者合計値による市内消費単価は直近 2 年の増加比は対前 140%強となっているが、直近 2 年間の増加数値においてはコロナ禍における観光消費需要拡大施策の実施による特殊要因が大きく影響した数値となっている。

令和 5 年度においては、アフターコロナによる旅行需要への追い風もあり引き続きの増加が見込まれ、令和元年度並みの旅行消費額への回復が想定されるが、令和 6 年においては旅行喚起支援策やアフターコロナ需要終息により一時的な旅行消費の落ち込みが想定される。

上記諸要因を含め、市内宿泊者及び市内滞在時間拡大への取組み、クルーズ船の寄港を始めとする訪日旅行者数の増加を加味し、令和 7 年度においては旅行消費額 20,000 (千円) 台に回復させることを目標値として設定をする。

訪日外国人旅行消費額においては、観光庁作成【訪日外国人旅行者（観光・レジャー目的）の訪問回数と消費動向について】における令和元年度統計データ等を元に、令和 5 年度の目標値を 480 (百万) 円と設定する。令和 7 年までの 3 ヶ年においては、外国人旅行者向け誘客観光プロモーション等の強化を図り、110%/年増加を目標値として設定する。

基準値設定について。

酒田市への入込外国人旅行者数において、最大の来訪国となる台湾よりの訪日旅行者（令和元年度全国平均）における訪日 1 回目の 1 人当たりの旅行支出額 101,239 円、宿泊数 4.3 泊（いずれも全国平均）とのデータ数値を元に宿泊を伴う 1 日あたりの旅行消費額を 11770 円とし、酒田市内における日本人宿泊数の 1.37 泊と宿泊比率 20%を元に基準値として設定する。

参考：令和元年観光庁作成「訪日外国人旅行者（観光・レジャー目的）の訪問回数と消費動向について」

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/content/001350782.pdf>

延べ宿泊者数

## 【実績値】

酒田市独自内部調査による酒田市内施設における宿泊者数統計より引用し適用する。

## 【目標値について】

酒田市の延べ宿泊者数は新型コロナウイルス感染症拡大前（令和元年度）の 243 千人に対し過去 2 ヶ年平均では 190 千人程度での推移となり、コロナ禍を鑑みればコロナ前比 77.0%という減少幅は一定程度抑制傾向にあるものの本市での宿泊者数はなお少ない状態にある。

コロナ感染再拡大の懸念はぬぐい切れないが、各ポストコロナに向けての取組により観光需要も順調な回復傾向となっている現状と訪日旅行者の拡大等を踏まえ、令和 5 年度においては引き続きの増加、令和 6 年度においては一旦の減少を想定する。通過地点としての観光地より、新たな滞在型コンテンツの造成・提供・ブラッシュアップをおこない誘客・訪日旅行者受入体制の強化を図っていく。令和 7 年度においては令和 4 年度水準を上回ることを目標値として設定する。

訪日外国人旅行者延べ宿泊者数は、山形県作成「山形県観光者数調査 外国人旅行者県内受入実績調査」令和 1 年度庄内地域受入観光者数を元に基準値とし設定し、令和 5 年度は基準値を目標値とする。その後は台湾を中心とした観光プロモーションの継続実施などにより 700 人増/年を目標値として設定する。

訪日外国人旅行者における山形県への延べ受入宿泊者数 184,760 人に対し、庄内地区訪問割合（日帰り+宿泊）18.63%を乗じた上で、酒田市における日本人の入込観光者宿泊比率 20%を適用し、6884 人を基準値として設定する。

参考：「令和元年 山形県観光者数調査」

<https://www.pref.yamagata.jp/documents/3467/r1kankoshasuchosa.pdf>

## 来訪者満足度

## 【実績値】

酒田市より業務委託にて作成された調査報告書より引用し適用する。

参考：「令和 4 年度 酒田市観光に関する調査研究」

[https://www.city.sakata.lg.jp/kosodate/kouekibunka/koekidaikanrenjoho/univ\\_machidukuri.files/2022\\_kanko\\_itaku.pdf](https://www.city.sakata.lg.jp/kosodate/kouekibunka/koekidaikanrenjoho/univ_machidukuri.files/2022_kanko_itaku.pdf)

「大変満足」、「満足」、「不満」、「大変不満」の 4 段階評価のうち、「大変満足」及び「満足」としての回答計数値を来訪者満足度と定義する。

## 【目標値について】

現状酒田市の来訪者満足度は 96.4%（令和 4 年度数値）、直近 3 ヶ年平均値でも 94.7%と高水準となっており酒田への来訪者満足度は高評価となっている。

半面同調査において初めての来訪者率は 28.5%と約 3 割に留まっているため、新し顧客層の開拓・拡大を行いながら高水準となっている現在の満足度を保てるようアンケート結果等により改善点を洗い出し、対策を講じ継続的に取り組むものとする。

目標数値においては来訪者増加に伴い数値の低下が想定されるが、令和 7 年迄の 3 ヶ年においては現在の満足度の数値維持を目標とし設定する。

訪日外国人旅行者満足度においては、観光庁作成【訪日外国人旅行者（観光・レジャー目的）の訪日回数と消費動向について】統計データより、酒田市への入込外国人旅行者数において最大来訪国となる台湾よりの訪日旅行者 1 回目の満足度 96.9%を基準値（2019 年度全国平均）とし、令和 7 年迄の 3 ヶ年においては入込観光者数の拡大を基軸とし現在の満足度の数値維持を目標とし設定する。

## リピーター率

## 【実績値】

酒田市より業務委託にて作成された調査報告書より引用し適用する。

参考：「令和 4 年度 酒田市観光に関する調査研究」

[https://www.city.sakata.lg.jp/kosodate/kouekibunka/koekidaikanrenjoho/univ\\_machidukuri.files/2022\\_kanko\\_itaku.pdf](https://www.city.sakata.lg.jp/kosodate/kouekibunka/koekidaikanrenjoho/univ_machidukuri.files/2022_kanko_itaku.pdf)

「初めて」「2回目」「3回目」「4回目以上」の訪問回数調査の項目において、全体から「初めて」を除外した割合をリピーター率と定義する。

#### 【目標値について】

現状リピーター率は71.1%（令和4年度数値）と高水準ではあるが観光地としての酒田の認知度は低く、入込観光者数の拡大という観点により新規顧客開拓に重点を置き情報発信などのプロモーション強化を行っていく。

令和4年の調査数値が令和3年度数値に比べ高水準であることと、新規顧客開拓に伴いリピーター率は一旦下降するものと想定されるが、令和4年度の目標数値を基本とし、毎年1ポイントずつの改善による増加を目標として継続的に取り組むものとする。

訪日外国人旅行者リピーター率においては、観光庁作成【訪日外国人旅行者（観光・レジャー目的）の訪日回数と消費動向について】統計データより、酒田市への入込外国人旅行者数にて最大来訪国となる台湾よりの訪日回数1回の14.4%を基準値（2019年度全国平均）とし、令和7年までは新規入込観光者数の増加への取込みを基軸とし令和7年までは3%増/年の増加を目標とし設定する。

## （2）その他の目標

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
地域商品の販売実績 (千円)	目標	(-)	(-)	5,000	5,000	5,750	6,615
		(-)	(-)	(-)	(4,500)	(5,175)	(5,950)
市内訪問先件数 (件)	実績	(-)	(-)	567			
		(-)	(-)	(0)			
市内訪問先件数 (件)	目標	(-)	(-)	(-)	3.25	3.50	3.80
		(-)	(-)	(-)	(2.60)	(2.80)	(3.04)
住民満足度 (%)	実績	3.80	3.42	3.03			
		(-)	(-)	(-)			
住民満足度 (%)	目標	(-)	(-)	(-)	92.5	94	95.5
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
WEBマーケティング SNSフォロワー数 (人)	実績	(-)	(-)	90.8			
		(-)	(-)	(-)			
WEBマーケティング SNSフォロワー数 (人)	目標	(-)	(-)	100	450	550	600
		(-)	(-)	(0)	(60)	(75)	(85)
観光案内所来訪者数 (人) R2度は11/28～3/31 の合計人員	実績	(-)	(-)	298			
		(-)	(-)	39			
観光案内所来訪者数 (人) R2度は11/28～3/31 の合計人員	目標	(-)	(-)	10,000	21,000	28,000	35,000
		(-)	(-)	(50)	(300)	(450)	(600)
観光案内所来訪者数 (人) R2度は11/28～3/31 の合計人員	実績	2,293	8,572	13,894			
		(14)	(51)	(148)			

括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値 各指標項目の単位を記入すること。

## 指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【検討の経緯】

その他のKPI目標における設定項目及び目標数値においては、観光振興において現在酒田市が抱える解決課題である、旅行消費額の拡大への取組み、国内外におけるターゲット層への認知度向上誘客促進への取組みに関する基礎データ収集に重点を置き目標設定をおこなうこととする。

KPI 設定項目、目標数値、考え方、プロセス等については、各項目毎に記載する。

### 【設定にあたっての考え方】

#### 着地型旅行商品の造成における販売実績

着地型旅行商品については単に観光をするだけでなく、酒田の歴史文化・自然を活用した体験型プログラムを組み込み、酒田でしか体験できない高付加価値商品の造成・販売を行い、酒田市の課題である滞在時間・旅行消費額の拡大を図るとともに、酒田 DMO の安定的な経営基盤の構築を図ることを目的として設定する。

目標・実績については、令和 5 年度において造成済 3 商品を基準とし、参加者アンケート等を元に内容の見直し等磨き上げを行いながら、令和 6 年度において 4 商品の造成提供を目標として訪日外国人旅行者を主たる販売マーケットとして展開を図る取組みを行っていく。

KPI の目標設定においては、酒田 DMO の自律的運営資金の確保及び運営方針である「稼ぐ力」に注視していくため販売額に対し目標設定を行うものとする。

目標設定金額の基準額として、未達成となった令和 4 年の目標金額を設定額とし、ポータルサイトの認知度向上や訪日外国人旅行者向けの販売セールスに比例し 115%/年 と売上想定し、上記推移にて目標設定を行う。

販売金額内訳としてはメイン販売対象顧客を訪日外国人旅行者として設定を行い、体験型高付加価値商品の造成を中心に行うため、販売比率は訪日外国人旅行者 9 割として目標の設定を行う。

#### 住民満足度

酒田市が委託にて実施を行っている「市民アンケート調査分析等業務報告書」における令和 4 年度の報告書においては 90.8%と高評価回答となっている。

調査結果よりも市内における二次交通に関する改善要望が高い数値となっており、DX への取組みを踏まえ目標値を設定することとする。

目標数値は、平均 1.5 ポイント改善/年 とし目標を設定することとする。

住民満足度のため、外国人に関する目標設定・実績数値分析は行わないものとする。

#### 市内訪問先件数

酒田市の課題である滞在時間・旅行消費額の改善拡大を目的とし、「令和 4 年度酒田市観光に関する調査研究」における本市の平均訪問件数 3.03 ヶ所 を基準値とし、令和 7 年度までに 0.8 ヶ所増やし、令和 2 年度の平均訪問件数に戻すことを目標として設定する。

訪日外国人旅行者の訪問件数については、コロナ禍の影響もあり令和 4 年時点での基礎となるデータが無いため、日本人旅行者の訪問件数をベースに日本人観光客の 80%と想定し設定する。

今後は酒田 DMO にて独自にアンケート調査を実施し、データ収集及び管理・分析を実施する。

## WEB マーケティング SNS フォロワー数

SNS への情報発信強化をおこなっている為、SNS フォロワー数での目標数値設定とする。

酒田市への若年・三世代家族層への誘客促進及び、リピーター層の拡大においては有効的な情報・データ収集と分析が必要となるため目標として設定する。

主にスマートフォンでの情報収集率の高い、国内におけるターゲット層である若年層・三世代家族を主たるターゲットとし、Instagram と Facebook より情報発信を行う。

目標・実績については令和 4 年時点でのフォロワー数を基本とし、令和 5 年度以降は酒田市の魅力を効果的に情報発信することにより、令和 7 年までの 3 ヶ年平均で 127% フォロワー数の増加、外国人フォロワー数は 3 ヶ年平均で 130% の増加を目標として設定し、今後も酒田 DMO にて独自調査を行い管理・分析を実施する。

## 観光案内所来訪者数

酒田駅前観光案内所（ミライニ）は、庄内地区の観光地のパンフレットやイベントの情報を取り揃え、観光ガイドが常駐し観光客のサポートを行っている。また無料観光用自転車の貸出も行っており市内巡行の手段を提供している。

JR 酒田駅、酒田駅高速バス乗り場を利用する観光客やビジネスマンが酒田周辺の観光情報の収集に立ち寄る傾向が多いことから、来訪者データ収集・分析作業等に活用を行うために目標として設定する。

目標については、令和 7 年度まで 7,000 人/年増、外国人利用については 150 人/年増を目標として設定する。

## 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

少なくとも今後 3 年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。  
現に活動している法人にあっては、過去 3 年間の実績も記入すること。

## (1) 収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2020（R2） 年度	（円） （DMO 設立前のため 記載なし）	（内訳の区分例） 【国からの補助金】 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 【公物管理受託】 【収益事業】 【会費】 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等
2021（R3） 年度	（円） （DMO 設立前のため 記載なし）	（内訳の区分例） 【国からの補助金】 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 【公物管理受託】 【収益事業】 【会費】 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】等

（円）

2022 ( R 4 ) 年度	68,814,000 ( 円 )	( 内訳の区分例 ) 【国からの補助金】 7,369 ( 千円 ) 【都道府県からの補助金】 99 ( 千円 ) 【市町村からの補助金】 34,647 ( 千円 ) 【公物管理受託】 0 ( 千円 ) 【収益事業】 23,658 ( 千円 ) 【会費】( 賛助会員 ) 0 ( 千円 ) 【特定財源 ( 宿泊税、入湯税、負担金等 )】等 0 ( 千円 ) 【その他】 3,041 ( 千円 )
2023 ( R 5 ) 年度	61,550,000 ( 円 )	( 内訳の区分例 ) 【国からの補助金】 5,001 ( 千円 ) 【都道府県からの補助金】 0 ( 千円 ) 【市町村からの補助金】 42,685 ( 千円 ) 【公物管理受託】 0 ( 千円 ) 【収益事業】 11,812 ( 千円 ) 【会費】( 賛助会員 ) 2,000 ( 千円 ) 【特定財源 ( 宿泊税、入湯税、負担金等 )】等 0 ( 千円 ) 【その他】 52 ( 千円 )
2024 ( R 6 ) 年度	57,300,000 ( 円 )	( 内訳の区分例 ) 【国からの補助金】 公募事業獲得状況による 0 ( 千円 ) 【都道府県からの補助金】 0 ( 千円 ) 【市町村からの補助金】 42,500 ( 千円 ) 【公物管理受託】 0 ( 千円 ) 【収益事業】 12,300 ( 千円 ) 【会費】( 賛助会員 ) 2,500 ( 千円 ) 【特定財源 ( 宿泊税、入湯税、負担金等 )】等 0 ( 千円 ) 【その他】 0 ( 千円 )
2025 ( R 7 ) 年度	58,300,000 ( 円 )	内訳の区分例 ) 【国からの補助金】 公募事業獲得状況による 0 ( 千円 ) 【都道府県からの補助金】 0 ( 千円 ) 【市町村からの補助金】 42,500 ( 千円 ) 【公物管理受託】 0 ( 千円 ) 【収益事業】 12,800 ( 千円 ) 【会費】( 賛助会員 ) 3,000 ( 千円 ) 【特定財源 ( 宿泊税、入湯税、負担金等 )】等 0 ( 千円 ) 【その他】 0 ( 千円 )

## (2) 支出

年(年度)	総支出	内訳(具体的に記入すること)
2020(R2) 年度	(円) (DMO 設立前のため 記載なし)	(内訳の区分例) 【一般管理費】 【情報発信・プロモーション】 可能であれば国内外の割合を記載 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 【マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)】 【観光イベントの開催費】 等
2021(R3) 年度	(円) (DMO 設立前のため 記載なし)	内訳の区分例) 【一般管理費】 【情報発信・プロモーション】 可能であれば国内外の割合を記載 【受入環境整備等の着地整備】 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 【マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)】 【観光イベントの開催費】 等  (円)
2022(R4) 年度	59,594,000(円)	内訳の区分例) 【一般管理費】 15,559(千円) 【情報発信・プロモーション】 可能であれば国内外の割合を記載 国内: 4,224(千円) 海外: 2,461(千円) 【受入環境整備等の着地整備】 19,740(千円) 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 13,492(千円) 【マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)】 2,119(千円) 【観光イベントの開催費】等 コンテンツ開発に合算計上 【自主事業】等 1,999(千円)
2023(R5) 年度	58,770,002(円)	内訳の区分例) 公募事業獲得状況による 【一般管理費】 23,420(千円) 【情報発信・プロモーション】 可能であれば国内外の割合を記載 国内:6,500(千円) 海外:3,000(千円) 【受入環境整備等の着地整備】 6,000(千円) 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 7,000(千円) 【マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)】 3,000(千円) 【観光イベントの開催費】 等 6,500(千円) 【自主事業】等 3,350(千円)
2024(R6) 年度	55,250,000(円)	内訳の区分例) 公募事業獲得状況による 【一般管理費】 23,750(千円) 【情報発信・プロモーション】

		<p>可能であれば国内外の割合を記載</p> <p>国内:6,500 (千円) 海外:3,000 (千円)</p> <p>【受入環境整備等の着地整備】 4,000 (千円) 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 4,500 (千円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 3,000 (千円) 【観光イベントの開催費】 等 6,500 (千円) 【自主事業】 等 4,000 (千円)</p>
2025 ( R 7 ) 年度	56,700,000 (円)	<p>内訳の区分例) 公募事業獲得状況による</p> <p>【一般管理費】 26,250 (千円) 【情報発信・プロモーション】</p> <p>可能であれば国内外の割合を記載</p> <p>国内:6,300 (千円) 海外:3,000 (千円)</p> <p>【受入環境整備等の着地整備】 3,500 (千円) 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 4,300 (千円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 3,000 (千円) 【観光イベントの開催費】 等 6,000 (千円) 【自主事業】 等 4,350 (千円)</p>

### ( 3 ) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

#### 【取組内容】

イベント実施時や地域事業でのコンサルタント・アドバイス事業の受託運営

各実行委員会等が企画運営をする大規模イベント (酒田まつり、酒田の花火全国二尺玉花火競技大会、酒まつり 等) の運営において、旅行業やイベント運営の実績のある社員が、コンサル・アドバイザーとしての参加体制を確立する。

( 令和 5 年度受託事業 )

・酒田の花火全国二尺玉花火競技大会 事務局・チケット販売業務

・酒まつり運営業務

・日和山ライトアップ・まち歩き観光支援事業

○ 自治体よりの事業受託運営

酒田市と協議・連携しながら、自治体からの事業受託により運営資金の確保を図る。

( 令和 5 年受託事業 )

・企業版ふるさと納税 対応セールス窓口業務 ( 令和 6 年度よりは事務局運営受託予定 )

着地型商品の造成販売

令和 4 年度においては観光庁の補助事業を活用し実施を行ったモニターツアー「酒田版アドベンチャーツアー」の磨き上げを行うと共に、令和 4 年度に作成した他商品と合わせ、デジタル田園都市国家構想交付金を活用し構築した専用ポータルサイト等にて販売を行う。

また主要販売顧客マーケットは台湾を中心とした東南アジア圏よりの訪日旅行者と設定し、台中

旅行博等を始めとする海外発の観光販売プロモーションの実施強化を行う。

酒田 DMO プライベートブランド（PB）ショップ「酒田商店」の開設。

PB 商品のみでの販売だけでなく、観光コンテンツ+PB 商品として販売を行うことで観光プロモーションとしての相乗効果が期待でき、観光情勢に左右されることなく安定的な販売収益の確保が期待できる。

また海外への販路拡大を視野に観光プロモーションとして連携し、安定的な収益を確保していく。令和 5 年度中の開設に向け、現在準備進行中。

賛助会員の募集

令和 5 年 3 月現在、計 5 事業者の入会実績あり。

今後会員数の拡大を図り運営費の確保を図る。

#### 【方針】

- ・営利法人として「稼ぐ力」を基本とし、多様なニーズにあった酒田ならではのコンテンツ（酒田の歴史・文化・自然を織り込み、時代にマッチした新しいコンテンツ）を開発し提供する。
- ・データ分析を行うことによりお客様となるターゲットの明確化を行う。
- ・高付加価値を意識したサステナブルなコンテンツの開発。
- ・地域の課題を事業者・団体と共に考え解決を図っていく。
- ・売上だけでなく収益確保を意識し、KPI により常に実施事業の見極め再構築を図る。

### 8 . 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

山形県酒田市は今後本市における観光及び地域振興を推進していくにあたり、一般財団法人酒田 DMO を酒田市における地域 DMO として登録をおこないたく、一般財団法人酒田 DMO とともに申請致します。

### 9 . マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携 DMO（県単位以外）や地域 DMO と重複する場合の役割分担について（重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携 DMO や地域 DMO との間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

- ・他の DMO と重複しているエリアはありません。

【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

## 10 . 記入担当者連絡先

担当者氏名	荒井 朋之
担当部署名(役職)	代表理事 兼 事務局長
郵便番号	998-0044
所在地	山形県酒田市中町 1 丁目 4-10 6 階
電話番号(直通)	080-8543-5591(代)
F A X 番号	なし
E - m a i l	tomoyuki_a@sakatadmo.com

## 11 . 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	酒田市
担当者氏名	今野 紀生
担当部署名(役職)	地域創生部 交流観光課 課長
郵便番号	998-8540
所在地	山形県酒田市 2 丁目 2-45
電話番号(直通)	0234-26-5809
F A X 番号	0234-22-3910
E - m a i l	norio-konno@city.sakata.lg.jp

都道府県・市町村名	庄内地域
担当者氏名	佐藤 守
担当部署名(役職)	庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課 観光振興室長 庄内観光コンベンション協会 事務局長
郵便番号	997-1392
所在地	山形県東田川郡三川町大字横山字袖東 19-1
電話番号(直通)	0235-66-2125
F A X 番号	0235-66-4728
E - m a i l	satomamo@pref.yamagata.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

山形県酒田市

【設立時期】 2022年5月26日

【設立経緯】

従来の「酒田観光戦略推進協議会」に代わり、企業感覚を重視した組織として域内の観光振興を目的とし酒田DMOを新設。

【代表者】 荒井 朋之

【マーケティング責任者(CMO)】 浅羽 由紀夫

【財務責任者(CFO)】 佐藤 良広

【職員数】 5人(常勤5人(正職員2人・出向等3人)、非常勤0人)

【主な収入】(令和4年度決算)

事業収入 12,006(千円)、委託事業 11,652(千円)、補助金・負担金 42,115(千円)、その他 3,041(千円)

【総支出】(令和4年度決算)

事業費 44,035(千円)、管理費 15,559(千円)

【連携する主な事業者】

酒田市、(一社)酒田観光物産協会、酒田商工会議所、(株)平田牧場  
酒田小鈴合同会社、有限会社チアーズ、松山観光バス(株) 他

KPI(実績・目標)

記入日: 令和5年 7月 1日

( )内は外国人に関するもの。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行消費額 (百万円)	目標	- (-)	- (-)	17,466 (-)	22,000 (480)	19,400 (529)	20,000 (579)
	実績	8,860 (-)	12,515 (-)	19,453 (-)			
延べ宿泊者数 (千人)	目標	- (-)	- (-)	144 (-)	230 (6.8)	215 (7.5)	222 (8.2)
	実績	176 (-)	204 (-)	217 (-)			
来訪者満足度 (%)	目標	- (-)	- (-)	93.8 (-)	96.5 (96.9)	96.5 (97.0)	96.5 (97.0)
	実績	96.4 (-)	91.4 (-)	96.4 (-)			
リピーター率 (%)	目標	- (-)	- (-)	62.0 (-)	63.0 (14.4)	64.0 (17.4)	65.0 (4)
	実績	- (-)	61.6 (-)	71.1 (-)			

戦略

【主なターゲット】

- ・ 仙台圏を中心とする近隣県及び首都圏の「三世代家族」
- ・ 隣県、隣接市在住の「若年層(特に20代～30代の女性)」
- ・ 台湾をメインターゲットとした東南アジア圏からの訪日外国人旅行者

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・ 酒田DMOオリジナルポータルサイト、SNS等の整備
- ・ 酒田DMOによる体験滞在型高付加価値オリジナルコンテンツの造成
- ・ ターゲット市場(国内/仙台圏・首都圏・海外/台湾)におけるAGT向け観光誘客プロモーションセールスの実施
- ・ 台湾における現地AGT連携の観光プロモーションの実施

【観光地域づくりのコンセプト】

「酒田ファンが酒田を創る」

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・ 「日和山ライトアップ・まち歩き観光支援事業」による台町エリアナイトタイムエコノミー活性化事業
- ・ 観光庁の補助事業を活用したアドベンチャーツーリズム「酒田アドベンチャー体験ツアー」の造成
- ・ 美酒美食事業として、全日空CA、市内事業者とのコラボレーションによる酒田の「酒田の酒と食を愉しむ夕べ」実施

【受入環境整備】

- ・ 観光商品販売ポータルサイトの導入
- ・ 市内事業者を募りネットによる地域商品販売を行う地域商社機能の促進
- ・ 体験型プログラムを盛り込んだ着地型高付加価値商品の造成

【情報発信・プロモーション】

- ・ 台中国際旅行展や現地台中富裕層向けスーパーでの酒田観光プロモーションの実施
  - ・ クルーズ船酒田港入港に合わせ、乗船客向け地産商品の展示即売会の実施
  - ・ 酒田DMOオリジナルポータルサイト及びSNSを活用した観光イベントの情報発信
  - ・ 仙台駅での酒田花火観光プロモーション
- 【その他】

- ・ 地域課題解決の取組における地域中学・高校・大学生との連携によるグループワーク、勉強会の実施

